

第3回吉田高校学校運営協議会

令和5年2月23日（木）
場所 吉田高校朝日子ホール
午前9時30分

次 第

司会 小佐野拓

- 1 開会の言葉（司会）
- 2 学校長あいさつ
- 3 学校運営協議会会長あいさつ
- 4 教育活動報告（生徒会主任 萱沼、 教頭 野澤より）
 - ・部活動報告（関東大会、全国大会、総合的な探究の授業）
（放送部 第69回NHK杯全国高校放送コンテストテレビドキュメント部門
全国入選作品視聴）
- 5 議事（議長 鶴田清司会長）
 - （1）第2回学校評価アンケート集計結果報告と
令和4年度学校評価報告書の評価について （教頭 野澤より）
 - （2）「地域と学校の協働体制確立推進事業」について（教頭 野澤より）
 - （3）令和5年度学校運営基本方針の骨格について （校長 古屋より）
 - （4）その他
- 6 連絡事項
 - （1）令和5年度学校運営協議会委員について
 - （2）令和5年度第1回学校運営協議会開催日について
4月9（日）、15（土）、16日（日）のいずれかを予定
 - （3）その他
- 7 閉会の言葉（司会）

4 教育活動報告（生徒会主任より）

・部活動報告（関東大会、全国大会）

★運動部

- ウェイト 3年 高草公佑
国民体育大会ウェイトリフティング競技 3位入賞
- 自転車 1年 望月蓮
国民体育大会自転車競技 個人ロードレース 4位入賞
- スケート部 2年 雨宮淳 関東大会 男子500m 6位入賞
国体 少年男子1000m 8位入賞
2年 倉澤伸太郎 関東大会男子1500m 5位 5000m 3位入賞
国体少年男子1500m 6位入賞
3年 杉浦早咲 関東大会女子500m 3位 1000m 2位入賞
1年 湯山綾香 関東大会女子1500m 4位入賞
関東大会 男子学校対抗 2位 女子学校対抗 3位
国民体育大会 少年男子2000mリレー 6位
少年女子2000mリレー 7位
全国高等学校スピードスケート競技選手権大会 出場
1年弓道部 全国高校弓道選抜大会 出場
- 卓球部 関東高校選抜卓球大会 出場
- スキー部（個人参加）
2年 眞田尚斗
関東高等学校スキー選手権大会 回転 大回転 出場
- ボート部 関東高等学校選抜ボート大会
男子舵手付きクォドルプル 優勝
女子ダブルスカル 4位入賞
※以上2クルーは全国高校選抜ボート大会出場権獲得（3月）
女子舵手付きクォドルプル 5位入賞
男子ダブルスカル 6位入賞

★文化部

- 囲碁将棋部
全国高等学校総合文化祭囲碁部門 出場
2年 渡辺暁 全国高校新人将棋大会 出場
- 放送部 2年 町田光優 星野隆世
山梨県高等学校芸術文化祭 オーディオメッセージ部門
タイトル 「奏」 芸術文化祭賞
1年 大島咲和子
山梨県高等学校芸術文化祭 アナウンス部門 優秀賞
※ともに全国高等学校総合文化祭鹿児島大会出場権獲得
- 音楽部 声楽アンサンブルコンテスト全国大会 出場予定（3月）
関東ヴォーカルアンサンブルコンテスト高校の部
出場予定（3月）



囲碁部 後藤京香さん



ウエイト部 高草公佑選手



放送部 関東大会 優勝カップ



放送部 活動の様子



放送部 活動の様子



科学の甲子園 表彰式の様子

4 教育活動報告（教頭野澤より）

- ・総合的な探究の時間成果発表会について

1年生：1月28日（水）13:55～15:35 開催（オンライン配信）

2年生：2月8日（水）13:55～15:35 開催（1年生は分散見学）

「富士山学Ⅰ・Ⅱ」学年全体発表会



4月より取り組んできた「富士山学」学年全体発表会が、1学年は1月28日(水)にオンライン利用で、2学年は2月8(水)に体育館アリーナでの対面で、それぞれ開催されました。地域の魅力を様々な角度から探ることによって、多くの人の想いと支えによって地域が成り立っていることに気づき、自分自身が地域の一員として現在の学びをどのように還元できるかを考えることがねらいです。1年生がクラスごとに健康福祉・地場産業・交通・子育て・防災の5分野のテーマを、2学年は芸術文化・地場産業・スポーツ・健康福祉・国際・食・防災・自然環境の8分野の中から、2～6人のグループで研究テーマを設定し、探究活動を行ってきました。今回はクラス内発表で選ばれた各クラス・各テーマの代表による発表を行いました。





いずれのチームも臨機応変に対応してくれました。また、発表を聞いていた生徒も熱心にメモをとっていました。吉高 GP の傾聴力・想像力・思考力をフル活用しながら活動していました。「富士山学Ⅰ・Ⅱ」学年全体発表会は無事終了しました。

また、今年度2学年で「御師料理」を探究したチームの提案したメニューを、市内小中学校の給食メニューとして採用して頂きました。



富士山学のために地域の皆様関わって、吉高生に学びの場を提供してくださいました。関係各位の皆様にお礼申し上げます。本当にありがとうございました。これからも吉田高校をよろしくお願いします。



御師料理 小中給食で 富士吉田 吉田高生が献立



「御師料理」
をテーマに
した給食



「御師料理」をテーマに考案した給食を試食する生徒
—富士吉田・学校給食センター

富士吉田市の吉田高の生徒が考案した「御師料理」の給食が7日、市内の小中学校で提供された。生徒が、富士講信者の宿坊である御師の家を訪れて学んだ料理を元にメニューを考えたもので、生徒たちも味わった。(仲沢篤志)

富士 志己澤 篤尚
北麓 沢本 深 仲坂

総合学習の授業「富士山学」の中で、「食」をテーマに選んだ2年生の生徒5人は「御師料理」に注目。市内の御師の家を訪れて、提供されていた料理を聞くなどして勉強を重ねてきた。

「学校給食に出して、知ってもらいたい」との要望を、市の学校給食センターが快諾。栄養のバランスや予算も加味しながら、管理栄養士ら

とともにメニューを検討してきた。

完成した給食の献立は、ぶりの照り焼き、レンコンのきんぴら、花豆、なめこ汁にご飯と牛乳。市内の小中学校の給食で提供された。7日は考案した生徒5人がセンターを訪れて、調理過程を見学した後、給食を味わった。

2年の下垣心暖さんは「中学以来の給食はうれしかった」と笑顔を浮かべた後、「御師のこと、御師料理のことも初めて知ったことが多かった。食を通して、文化を伝えることができたと思う」と話していた。

令和4年度（1）月実施学校評価アンケート質問項目（1年生徒対象）

「大いに思う」:「0」 「ほぼ思う」:「1」
 「あまりそう思わない」:「2」 「全くそう思わない」:「3」
 ※網掛け項目は変更箇所

■回答人数:1月:216名
 ■達成率=(大いに思う)+(ほぼ思う)

問題 番号	項目	質 問 項 目	0	1	2	3	%		R4 7月
							達成率 (0+1)	↑ ↓	
1	生徒の 知識 活用 力を 高め る	私は、吉田高校グラデュエーション・ポリシーを意識して生活している。	19.9	53.7	24.5	1.9	73.6	↑	72.0
2		吉田高校では、生徒に考えさせ、生徒が主体的に学ぶ授業がおこなわれている。	33.3	61.1	5.0	0.5	94.4	↓	95.5
3		私は、授業が楽しいと感じることが多い。	20.8	56.9	20.8	1.4	77.7	↓	81.5
4		私は、授業で感じた疑問を自ら調べようとしている。	23.1	60.1	15.2	1.3	83.2	↑	82.8
5	生徒の 主体 性を 高め る	私は、学習と部活動を含めた諸活動との両立に努めている。(いた)	36.6	42.1	13.9	7.4	78.7	↓	80.1
6		(旧)私は、身の回りに存在する課題に対して、意欲的に行動している。 (新)私は、自己の任務や課題に対して、意欲的に取り組んでいる。	29.6	52.3	16.7	1.4	81.9	↓	83.3
7		私は、自分の言動に責任を持って行動している。	36.6	53.7	8.8	0.9	90.3	↑	88.7
8	生徒の 社会 性を 養う	(旧)新聞、自治体の広報、地域の連絡資料等を読んだり、地域の行事に参加するなどして、社会全体の状況や地域の状況を知るようにしている。 (新)富士山学、課題研究などの探究活動や講演会等を通して、地域と関わりを持ち、地域の話題や課題を意識している。	21.8	57.4	19.4	1.4	79.2	↑	41.4
9		私は、部活動、生徒会行事、または学校外活動に取り組み、多くの人と関わるようにしている。	37.0	42.6	18.5	1.9	79.6	↓	81.9
10		私は、SDGsを理解するとともに、周囲への配慮や奉仕の心を持って行動できるようになった。	27.3	56.0	15.3	1.4	83.3	↑	78.3
11	そ の 他	吉田高校では、webを利用して積極的に各種情報を提供している。	31.9	47.7	19.0	1.4	79.6	↓	83.7
12		私は、節電・節水を実践し、環境に配慮している。	32.9	50.5	16.2	0.5	83.4	↓	84.2
13	吉高 GP	私は、吉田高校グラデュエーション・ポリシー(8つの力)について、高校生活の中で総合的に向上した。	26.4	58.3	14.8	0.5	84.7	↑	81.0

達成率:70%未満の項目

5ポイント以上の差がある

【概況】

- ・7月と比較すると下がっている達成率もあるが大幅に下がった項目は見られない。全体的には高い達成率であるといえる。
- ・項目の8番目「生徒の社会性を養う」は富士山学や課題研究が効果的だったことが伺える。

【課題解決に向けて】

- ・吉高GPを様々な活動で意識させることで多くの項目で課題解決になると感じるので、授業や部活動などを中心に意識を高めていきたい。

令和4年度（1）月実施学校評価アンケート質問項目（2年生徒対象）

「大いにそう思う」:「0」 「ほぼそう思う」:「1」
 「あまりそう思わない」:「2」 「全くそう思わない」:「3」
 ※網掛け項目は変更箇所

■回答人数:1月:229名

■達成率=(大いに思う)+(ほぼそう思う)

問題番号	項目	質問項目	0	1	2	3	達成率 (0+1)	%		R4 7月	R4年 1月	R3年 7月
								↑	↓			
1	生徒の知識活用力を高める	私は、吉田高校グラデュエーション・ポリシーを意識して生活している。	21.0	61.1	17.9	0.0	82.1	-	82.1	82.7	83.6	
2		吉田高校では、生徒に考えさせ、生徒が主体的に学ぶ授業がおこなわれている。	25.8	61.6	11.8	0.9	87.4	↓	89.5	90.4	92.3	
3		私は、授業が楽しいと感じることが多い。	18.3	49.8	31.0	0.9	68.1	↓	69.9	65.8	76.2	
4		私は、授業で感じた疑問を自ら調べようとしている。	23.6	62.5	14.0	0.0	86.1	↓	90.4	86.1	89.2	
5	生徒の主体性を高める	私は、学習と部活動を含めた諸活動との両立に努めている。(いた)	38.0	48.5	9.2	4.4	86.5	↑	84.3	83.9	89.8	
6		(旧)私は、身の回りに存在する課題に対して、意欲的に行動している。 (新)私は、自己の任務や課題に対して、意欲的に取り組んでいる。	31.4	58.0	10.0	0.4	89.4	↑	87.8	82.7	82.8	
7		私は、自分の言動に責任を持って行動している。	36.7	56.8	6.6	0.0	93.5	↑	93.4	93.9	92.3	
8	生徒の社会性を養う	(旧)新聞、自治体の広報、地域の連絡資料等を読んだり、地域の行事に参加するなどして、社会全体の状況や地域の状況を知っている。 (新)富士山学、課題研究などの探究活動や講演会等を通して、地域と関わりを持ち、地域の話題や課題を意識している。	32.8	51.1	14.0	2.2	83.9	↑	50.6	57.6	60.8	
9		私は、部活動、生徒会行事、または学校外活動に取り組み、多くの人と関わるようにしている。	41.9	46.3	11.4	0.4	88.2	↓	90.8	85.2	92.2	
10		私は、SDGsを理解するとともに、周囲への配慮や奉仕の心を持って行動できるようになった。	28.4	58.0	13.5	0.0	86.4	↑	82.1	71.9	71.6	
11	その他	吉田高校では、webを利用して積極的に各種情報を提供している。	25.8	55.0	17.0	2.2	80.8	↓	81.7	73.2	73.7	
12		私は、節電・節水を実践し、環境に配慮している。	36.8	52.6	9.2	1.3	89.4	↑	87.8	84.0	84.9	
13	吉高GP	私は、吉田高校グラデュエーション・ポリシー(8つの力)について、高校生活の中で総合的に向上した。	30.6	61.1	8.3	0.0	91.7	↑	90.4	90.0	91.0	

達成率:70%未満の項目

5ポイント以上の差がある

【概況】

- ・全体的な評価については、質問番号3を除いてすべてで80%を超える達成率であった。学習以外の様々な学校生活の場面において吉高GPを意識しながら行動しているものと思われる。
- ・質問番号3については、過年度と比較しても低い達成率となっている。学習内容が高度になってきたことやペースが速くなってきたことなども原因として考えられる。
- ・質問番号8は富士山学の探究活動に伴って、生徒側のはたらきかけだけでなく、地域の方からも積極的に高校生に関わっていただいたことが高評価になったと考えられる。

【課題解決に向けて】

- ・質問番号3「私は、授業が楽しいと感じることが多い。」について、原因として考えられることは概況にも書かせてもらったが、それを実施している教員側もまた余裕のない状態となっていることが挙げられる。さらに、生徒主体の授業展開ができる時間も少なく、生徒が「理解できた」と実感できる場面が少なくなっているのではないと思われる。今後の課題解決に向けて、さらなる授業研究、生徒理解をしていきながら、できればすべての授業の中で生徒主体の場面が作り出せるように努めると同時に、生徒が理解を実感できるように創意・工夫していきたい。

令和4年度 (1)月実施学校評価アンケート質問項目(3年生徒対象)

「大いにそう思う」:「0」 「ほぼそう思う」:「1」
 「あまりそう思わない」:「2」 「全くそう思わない」:「3」
 ※網掛け項目は変更箇所

■回答人数:1月235名(月: 名)
 ■達成率=(大いに思う)+(ほぼそう思う)

問題番号	項目	質問項目					%		%	
			0	1	2	3	達成率 (0+1)	↑ ↓	R4年 7月	
1	生徒の知識活用力を高める	私は、吉田高校グラデュエーション・ポリシーを意識して生活している。	23.8	55.3	19.1	1.7	79.1	↓	82.1	
2		吉田高校では、生徒に考えさせ、生徒が主体的に学ぶ授業がおこなわれている。	34.5	53.6	10.6	1.3	88.1	↓	93.2	
3		私は、授業が楽しいと感じることが多い。	27.2	53.2	17.9	1.7	80.4	↓	82.5	
4		私は、授業で感じた疑問を自ら調べようとしている。	34.0	57.4	7.7	0.9	91.4	↑	89.8	
5	生徒の主体性を高める	私は、学習と部活動を含めた諸活動との両立に努めている。(いた)	39.1	40.4	14.0	6.4	79.5	↑	79.1	
6		(旧)私は、身の回りに存在する課題に対して、意欲的に行動している。 (新)私は、自己の任務や課題に対して、意欲的に取り組んでいる。	41.7	53.6	3.8	1.3	95.3	↑	89.4	
7		私は、自分の言動に責任を持って行動している。	41.3	54.5	3.4	0.9	95.8	↑	94.1	
8	生徒の社会性を養う	(旧)新聞、自治体の広報、地域の連絡資料等を読んだり、地域の行事に参加するなどして、社会全体の状況や地域の状況を知っている。 (新)富士山学、課題研究などの探究活動や講演会等を通して、地域と関わりを持ち、地域の話題や課題を意識している。	34.9	45.5	16.2	3.4	80.4	↑	55.7	
9		私は、部活動、生徒会行事、または学校外活動に取り組み、多くの人と関わるようにしている。	40.0	41.7	15.7	2.6	81.7	↓	85.1	
10		私は、SDGsを理解するとともに、周囲への配慮や奉仕の心を持って行動できるようになった。	34.0	52.3	11.1	2.6	86.3	↑	80.4	
11	その他	吉田高校では、webを利用して積極的に各種情報を提供している。	26.4	53.6	16.2	3.8	80.0	↑	76.6	
12		私は、節電・節水を実践し、環境に配慮している。	42.6	47.7	8.1	1.7	90.3	↑	90.2	
13	吉高GP	私は、吉田高校グラデュエーション・ポリシー(8つの力)について、高校生活の中で総合的に向上した。	37.9	53.6	7.2	1.3	91.5	-	91.5	

達成率:70%未満の項目

5ポイント以上の差がある

【概況】

・全体としては充実した高校生活を送ることができたと言ってよい達成率だったと感じている(「項目2」は前回の-5.1ではあるものの達成率は88.1%)。
 ・7月には本校最大の学校行事である学園祭があった。そのような背景で吉高GPを意識しやすい時期であったと思われる。学園祭を境に受験モードになり、学習を中心とする学校生活において、個々に活動することが激増した。10月以降の授業では特に演習が増えたため、協働しながら学びを深めていくというより、個々に力をつけていく場面が多かった結果が数値に表れていると思う。
 ・3年間を通して「項目3」の数値が高い傾向にあった。コロナ禍の3年間だったからこそ、対面授業の良さを実感できたようだ。

【課題解決に向けて】

・該当学年、時期、学校行事等を踏まえ、目の前の生徒をよく観察し、「当該2ヶ月間で特に何を達成させるべきか」を見極め、学年職員や生徒、保護者間で共有し、3者が日々意識しながら取り組んでいくことが重要である。

令和4年度（1）月実施学校評価アンケート質問項目（全学年達成率一覧）

「大いに思う」:「0」 「ほぼ思う」:「1」
 「あまりそう思わない」:「2」 「全くそう思わない」:「3」
 ※網掛け項目は変更箇所

■回答人数:1年:216名 2年:229名 3年:235名

■達成率=(大いに思う)+(ほぼ思う)

問題番号	項目	質問項目	1年	2年	3年	達成率 1～3年 平均	項目別平均	7月項目 別達成率 平均	概況と解決に向けて
1	生徒の知識活用力を高める	私は、吉田高校グラデュエーション・ポリシーを意識して生活している。	73.6	82.1	79.1	78.3	82.6	84.3	全体的に高い達成率であるが、項目1、項目3については、達成率の平均値が70%台であった。項目1の達成率を上げるためには、吉高GPを授業、HR総合的な探究の時間、学校行事、部活動等あらゆる場面で、教員が意識化し、重点的に取り組む必要がある。項目3の達成率を上げるためには、すべての授業において生徒主体の場面を作るように心がけると同時に、ICTを活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させることが重要である。また、教科会議において、「授業を楽しめるものにする工夫」について話し合い、教科全体で改善を図っていくように努める必要がある。
2		吉田高校では、生徒に考えさせ、生徒が主体的に学ぶ授業がおこなわれている。	94.4	87.4	88.1	90.0			
3		私は、授業が楽しいと感じることが多い。	77.7	68.1	80.4	75.4			
4		私は、授業で感じた疑問を自ら調べようとしている。	83.2	86.1	91.4	86.9			
5	生徒の主体性を高める	私は、学習と部活動を含めた諸活動との両立に努めている。(いた)	78.7	86.5	79.5	81.6	87.9	86.7	全体的に高い達成率である。自己の任務や課題に対して、意欲的に取り組んでいる生徒の割合は、学年が上がるごとに高まっている。「自分の言動に責任をもって行動している」については、ほぼ全員が達成できているという状況である。項目5の学習と部活動等との両立については、クラス担任が生徒の状況を的確に把握してアドバイスを与えたり、学校全体として相談体制を充実させる必要がある。
6		(旧)私は、身の回りに存在する課題に対して、意欲的に行動している。 (新)私は、自己の任務や課題に対して、意欲的に取り組んでいる。	81.9	89.4	95.3	88.9			
7		私は、自分の言動に責任を持って行動している。	90.3	93.5	95.8	93.2			
8	生徒の社会性を養う	(旧)新聞、自治体の広報、地域の連絡資料等を読んだり、地域の行事に参加するなどして、社会全体の状況や地域の状況を知るようにしている。 (新)富士山学、課題研究などの探究活動や講演会等を通して、地域と関わりを持ち、地域の話題や課題を意識している。	79.2	83.9	80.4	81.2	83.2	71.8	全体として、高い達成率である。項目8は、7月のときのアンケートの問い方を変えたことで、より実態に近い状況を把握できたと考えられる。項目8と項目9の1年生の割合が80%未満である。コロナ禍であり、地域と関わりをもったり、多くの人と関わることは難しい面もあったと思うが、来年度以降は学校生活も平常化し、富士山学、理数探究等を通して、地域の話題を意識したり、地域の課題に取り組むことも今年以上にできることが期待できる。
9		私は、部活動、生徒会行事、または学校外活動に取り組み、多くの人と関わるようにしている。	79.6	88.2	81.7	83.2			
10		私は、SDGsを理解するとともに、周囲への配慮や奉仕の心を持って行動できるようになった。	83.3	86.4	86.3	85.3			
11	その他	吉田高校では、webを利用して積極的に各種情報を提供している。	79.6	80.8	80.0	80.1	85.7	85.2	全体として、高い達成率である。項目11の1年生の達成率が、80%未満である。学校の様々な情報を、学校のホームページで分かりやすく伝える創意・工夫がいっそう必要である。項目12については、例えば、生徒会本部が主体となり、学校の節電・節水に全校全体で取り組み、結果を数値化してホームページで公開するといった活動に取り組むこともできると考えられる。
12		私は、節電・節水を実践し、環境に配慮している。	83.4	89.4	90.3	87.7			
13	吉高GP	私は、吉田高校グラデュエーション・ポリシー(8つの力)について、高校生活の中で総合的に向上した。	84.7	91.7	91.5	89.3			

達成率:70%未満の項目

令和4年度(1)月実施学校評価アンケート質問項目(教職員対象)

「大いにそう思う」=「0」「ほぼそう思う」=「1」
 「あまりそう思わない」=「2」「全くそう思わない」=「3」
 ※網掛け項目は追加

■回答人数:1月:49名

■達成率=(大いに思う)+(ほぼそう思う)

問題番号	項目	質問項目					%		%	
			0	1	2	3	達成率(0+1)	↑ ↓	R4職員7月	R3職員7月
1	職管理	管理職は、リーダーシップを発揮し、適切に学校運営に当たっている。	16.3	69.3	10.2	4.1	85.6	↑	79.6	
2	めめる活用の高	私は、吉田高校グラデュエーション・ポリシーを常に意識している。	6.1	77.6	14.3	2.0	83.7	↑	81.2	85.5
3		私は、生徒が主体的に参加する授業を実施している。	16.3	77.6	6.1	0.0	93.9	↑	91.7	83.6
4		吉田高校は、生徒評価を適切に行っている。	16.3	77.6	6.1	0.0	93.9	↑	85.4	90.9
5		私は、自分の授業を反省し、次の授業に反映できるように努めている。	28.6	69.4	18.4	0.0	98.0	↑	97.9	89.1
6		吉田高校では、すべての活動に「分析し、思考し、創造し、発信する」機会を増やしている。	12.4	77.6	16.3	0.0	90.0	↑	85.4	74.5
7	めめる主体性を高	身の回りに存在する課題を発見し、他者との関係の中で「傾聴し、想像を共有し、行動する」機会をつくっている。	6.1	65.3	22.5	0.0	71.4	↓	85.4	74.6
8		吉田高校では、生徒自ら行動する態度を養っている。	12.2	65.3	22.5	0.0	77.5	↑	73.0	74.5
9		吉田高校では、生徒に、80年の伝統を受け継ぐ一人ひとりであることを様々な行事を通じて学ばせている。	4.1	61.2	32.7	2.0	65.3	↓	62.5	56.4
10	生徒の社会性を養う	吉田高校では、生徒に地域と関わり持つ機会を与え、地域の話や課題を意識させるように指導している。	20.4	65.3	14.3	0.0	85.7	↓	93.8	83.7
11		吉田高校では生徒が他者を思いやり健全な人間関係を築くことができるように指導している。	18.4	65.3	16.3	0.0	83.7	↑	78.4	72.7
12		吉田高校では、SDGsへの学びを深めさせ、ボランティア精神を養っている。	12.2	49.0	34.7	4.1	61.2	↓	64.6	63.6
13		吉田高校では各種の「たより」やホームページで積極的に情報を提供している。	14.3	71.4	10.2	4.1	85.7	↓	87.5	80.0
14	その他	吉田高校では校内で節電・節水を実践している。	2.0	63.3	32.7	2.0	65.3	↓	68.8	49.1
15~22		吉田高校グラデュエーション・ポリシーの8つの力について、それぞれ高校生活の中で生徒は、向上しましたか。								
15	吉高GP	① 自己肯定力 … 短所も含めて、自分を認める力	8.2	69.4	22.5	0.0	77.6	↑	74.3	65.4
16		② 傾聴力 … 他者の意見を謙虚に聴く習慣	10.2	79.6	10.2	0.0	89.8	↑	89.6	76.4
17		③ 分析力 … 事実を客観的に分析する習慣	16.3	71.4	12.2	0.0	87.7	↑	85.4	72.8
18		④ 思考力 … 物事を鵜呑みにせず、「何故か」を考える習慣	12.2	59.2	28.6	0.0	71.4	↓	77.1	70.9
19		⑤ 発信力 … 自分の考えを、わかりやすく他者に伝える方法	16.3	69.4	14.3	0.0	85.7	↑	85.4	70.9
20		⑥ 想像力 … 未来(結果)を考え、想像する力	10.2	71.4	18.4	0.0	81.6	↑	70.9	60.0
21		⑦ 創造力 … 課題を解決する方法を創造する力	6.1	71.4	22.5	0.0	77.5	↑	70.8	71.0
22		⑧ 行動力 … 自身の考えに基づき、行動する力	14.3	75.5	10.2	0.0	89.8	↑	85.5	71.0
		働き方改革を踏まえて業務の見直しを図れましたか								
23	働き方改革	担当業務内容全体を再構築し、分業や協業を行っている。	4.1	57.1	36.7	2.0	61.2	↑	43.8	54.6
24		ワークライフバランスを図るために、各自ができる具体的方策をとっている。(ICTの活用、定時退校の実践等)	6.1	59.2	32.7	2.0	65.3	↑	39.6	47.3

達成率:70%未満の項目

5ポイント以上の差がある

【概況】

- 全体としては7月に比べ達成率が上がっている項目が多く、学校教育の成果が挙がっていると言える。
- 項目の7番目については、日ごろの教育活動において、身の回りに存在する課題を発見させたり、傾聴し、想像を共有し、行動することを十分意識させることができていない教員もいることが原因と考えられる。
- 項目の10番については、コロナ禍の中で、生徒に地域との関わりを持つ機会を与えることが困難であったことが原因と考えられる。

【課題解決に向けて】

- 項目の7番目については、例えば富士山学等において、身の回りにある課題を発見させたり、HRや学校行事を通じて、他者との関係の中で「傾聴し、想像を共有し、行動する」機会を作ることを意識化し、その成果と課題をきちんと振り返り、その後の指導に生かしていくことが大切であるとする。
- 項目の10番については、富士山学や理数探究において、地域の話や課題を意識させるように心がけ、課題の解決に向けて探究活動をよりいっそう深めるように指導する必要があると考える。

令和4年度 学校評価アンケート質問項目(保護者対象)

■回答人数: 530 名

「大いに思う」=「0」「ほぼ思う」=「1」
「あまりそう思わない」=「2」「全くそう思わない」=「3」
※網掛け項目は変更箇所

■達成率=(大いに思う)+(ほぼ思う)

問題 番号	項目	質 問 項 目					%	%	
			0	1	2	3	達成率 (0+1)	前年度	
1	高 生 徒 の 知 識 活 用 能 力 を	吉田高校では、生徒に考えさせ、生徒が主体的に学ぶ授業がおこなわれている。	22.0	69.6	8.3	0.0	91.6	94.0	
2		吉田高校は、生徒一人ひとりを理解し、大切にしている。	17.3	70.6	11.5	0.6	87.9	89.4	
3		私の子どもは、栄養面や睡眠時間の確保などに留意して、健康の保持・増進に努めている。	15.8	55.6	25.6	3.0	71.4	63.1	
4	生 徒 の 主 体 性 を 高 め る	私の子どもは学習時間記録表などを活用して、計画的に行動している。	10.9	47.3	36.0	5.8	58.2	56.1	
5		吉田高校では、他の人の置かれた立場や状況を理解しようと努め、それに応じて話したり振る舞うことを指導している。	13.2	72.3	13.6	0.9	85.5	86.4	
6		吉田高校では、授業や特別教育活動を通して地域(社会)の話題や課題に目を向けさせ、自分との関わりを考えさせるような工夫や配慮がなされている。	19.6	69.1	11.1	0.2	88.7	88.2	
7		生 徒 の 社 会 性 を 養 う	私の子どもは、自分の進路に関心を持ち、将来の職業や生き方について考えるように努めている。	30.2	53.8	15.3	0.8	84.0	82.3
8			私の子どもは、部活動、生徒会行事、または学校外活動に取り組み、多くの人と関わるようにしている。	33.2	51.6	13.8	1.5	84.8	80.2
9	そ の 他	吉田高校では、SDGsを理解させるとともに、周囲への配慮や奉仕の心を持って行動できるよう学習活動に取り組んでいる。	12.8	67.4	19.2	0.6	80.2	78.5	
10		吉田高校では、webを利用して積極的に各種情報を提供している。	27.5	60.0	11.9	0.8	87.5	92.2	
11		私は、学校の教育方針を理解している。	12.2	71.4	15.6	0.8	83.6	89.0	
		吉田高校では、吉田高校グラデュエーション・ポリシーの8つの力について向上を図っていますが、お子さんは、それぞれの力が高校生活の中で向上したと思いますか。							
12	吉 高 G P	① 自己肯定力 … 短所も含めて、自分を認める力	21.3	62.7	14.7	1.3	84.0	81.1	
13		② 傾 聴 力 … 他者の意見を謙虚に聴く習慣	20.9	63.7	14.7	0.8	84.6	83.8	
14		③ 分 析 力 … 事実を客観的に分析する習慣	19.2	65.5	14.9	0.4	84.7	81.1	
15		④ 思 考 力 … 物事を鵜呑みにせず、「何故か」を考える習慣	20.9	63.5	14.7	0.9	84.4	77.3	
16		⑤ 発 信 力 … 自分の考えを、わかりやすく他者に伝える方法	14.9	58.2	25.6	1.3	73.1	69.4	
17		⑥ 想 像 力 … 未来(結果)を考え、想像する力	15.3	63.8	20.3	0.6	79.1	77.5	
18		⑦ 創 造 力 … 課題を解決する方法を創造する力	13.6	67.6	18.3	0.6	81.2	74.8	
19		⑧ 行 動 力 … 自身の考えに基づき、行動する力	20.7	63.1	15.3	0.9	83.8	78.7	

達成率: 70%未満の項目

【概況】

- ・項目の4番目については、忙しい日々の中で目標に基づいて計画的に行動できていない生徒がいることが原因と考えられる。
- ・項目の11番目については、本校の教育方針について、保護者への周知が不足していることが原因として挙げられる。

【課題解決に向けて】

- ・項目の4番目については、学習時間記録表等を活用して、自主的・主体的に自己管理ができ、生徒自らの意思で計画的に行動できるように指導する必要があると考える。
- ・項目の11番目については、PTAの総会、学年部会、理事会等で、学校の教育方針について説明を重ねると同時に、ホームページでもよりわかりやすく保護者に伝えられるように工夫が必要だと考える。

令和4年度 山梨県立吉田高等学校 学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	Yoshida PRIDE を持って未来を生き抜くことが出来る生徒を育成する
-----------	--

山梨県立吉田高等学校 校長 古屋 勇人

本年度の重点目標	1 生徒の知識活用能力を高める
	2 生徒の主体性を高める
	3 人とかかわりの中で生きていることを自覚させる
	4 「働き方改革」を踏まえて業務の見直しを図る

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自 己 評 価			
本年度の重点目標		年度末評価(2月20日現在)	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	生徒の知識活用能力を高める	※1 吉田高校グラデュエーション・ポリシーを意識し、生徒の主体性をさらに育成する授業を実施する。	外部アンケート等
		評価を適切に行い、自己肯定感の高揚を図る。	外部アンケート等
		授業と運動した課題を設定し、知識の活用定着を図る。	外部アンケート等
2	生徒の主体性を高める	常に「分析し、思考し、創造し、発信する」機会の提供を意識した指導を行う。	外部アンケート等
		自己の課題を発見し、他者との関係の中で「傾聴し、想像を共有し、行動する」ことができる生徒像を意識した指導を行う。	外部アンケート等
		日常生活、行事を通じて、自分の言動に責任を持ち、自ら行動する態度を養う指導を行う。	外部アンケート等

学校関係者評価	
実施日 (令和5年2月23日)	
評価	意見・要望等
4	<ul style="list-style-type: none"> ・今後とも、吉高GPの意識化を図ってほしい。 ・吉高GPは、確実に浸透していると感じる。ただ、とするとマンネリ感も出てくるころだとも思うので、創意工夫してさらなる浸透を図ってほしい。 ・吉高GPについて、生徒たちがしっかり理解していることは、学校内の様子を垣間見る時に感じる。しかし、吉高GPを実践できている生徒については、不足感を感じる。今後は、理解と実践を組み合わせた指導が求められると思う。 ・吉高GPが浸透し、意識化されていることは評価できる。しかし一方で、学年によるばらつきがある。学年が進むにつれて、吉高GPの深化が図られるように、学校全体として継続して取り組むことが求められる。 ・吉高GPに対する意識が、生徒・教職員・保護者とも非常に高く、素晴らしい。自己肯定感の向上は難しいが、「一つでも多くのことを知っていること、一つでも多くのことをやったこと」が自己肯定感に直結すると思う。自己肯定感の基礎を支える部分の指導を、大切にしてほしい。 ・吉田高校は地域のリーダー校であり、進学校でありながら、部活動でも大きな実績を挙げており、素晴らしい。吉田高校は、非常にバランスの取れた高校である。引き続き、文武両道を実践し、その良さや魅力を学校外に積極的にアピールしてほしい。また、吉高GPは具体的な目標の指標になっており、大変魅力的である。吉高GPに対する生徒の意識も、年々高まっていると感じている。吉高GPを今後も大切にしてほしい。 ・電気代の高騰を踏まえ、省エネの意識の向上を高めてほしい。 ・省エネへの取り組みについては、家庭教育が大きく影響すると思うが、学校では生徒が楽しみながら「見える化」を実践し、継続的な取り組みが重要であると思う。 ・習熟度別クラスの導入については、賛否両論があると思うが、地域の基幹校である吉田高校には、地域や国を担うリーダーを育てる責任があると思うので、ぜひ推進してほしい。 ・各種アンケートに、丁寧に回答し、改善策を模索してほしい。 ・今後も単なる知識の習得だけでなく、一人ひとりが知識を活用できる能力を身につけ、タフで優しい吉高高校生になってほしいと思う。 ・1年生より高い意識づけが感じられ、現在の吉田高校の良い評価につながっていると思う。 ・「授業が楽しい」については、授業内容と共に「学ぶことの楽しさ」を体得させる授業改善に期待する。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習と部活動を含めた諸活動の両立」については、学年が進むにつれて難しさがあるようである。これは進学校ならではの課題であるとも考えられる。両立するのが良いと一方的に評価するのではなく、その時々生徒の状況に合わせて、生徒自身が力の配分を決定できるような工夫が大切であると思う。 ・発信力を高めるためには、日ごろの考えの整理と、それに対応する方法を言葉でまとめる習慣づけが必要であると思う。そのために、具体的な取り組みを進めてほしい。 ・「させるべき」という考え方は、自立性・主体性を妨げる可能性があることを念頭に置く必要もあると思う。 ・社会のソフトウェア化が進み、「分析→思考→創造→発信」のためのスキルの重要性が高まっている。この取り組みを、学校全体で継続的に推進してほしい。 ・吉高生は元来、主体性をしっかり持った生徒が多いと感じる。それは学園祭や生徒会活動などから見て取れる。例えば、校則の改訂に際し、服装髪型規程についてかなり真剣に議論が重ねられたと聞いている。しかし、それに対して学校側の対応にスピード感が乏しく、生徒たちに虚しさが広がっているのではないかと心配している。「頑張りでも頑張れない」という感情を抱かせないように、適切に指導してほしい。 ・吉田高校の学校運営を進めるうえで、生徒の意見を聞いていくこともたしかに大切ではあるが、地域の基幹校であることを肝に銘じて、曲げないポリシーを持ってほしい。恐れず今一歩踏み込んで、吉田高校らしさを追求してほしい。 ・主体性の基本である「自責思考」を持ちながら、具体的な取り組みを推進する必要があると思う。 ・責任転嫁ではなく、問題や失敗は自己責任であると素直に受け入れられるように生徒を導いてほしい。そのうえで、分析、思考、創造、表現などを実践できるように、様々な取り組みを継続して行ってほしい。 ・学校・教員・生徒のバランスが取れていれば、学校全体としての意識が高まると思う。誰か任せではなく、各々が今の課題や関心に、真っすくに向き合える環境にある吉田高校であってほしい。

自 己 評 価			
本年度の重点目標		年度末評価(2月20日現在)	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
3	人とのかかわりの中で生きていることを自覚させる	学校内外との関わりの中で、自己肯定感を養う指導を行う。	外部アンケート等
		社会に関心を持ち、未来の社会について考える態度を養う指導を行う。	外部アンケート等
		ユネスコスクールの加盟認可を目指し、SDGsの実現のために知識と実現のための行動力を身につける指導を行う。	外部アンケート等
4	「働き方改革」を踏まえて業務の見直しを図る	生徒、自分の家族と触れ合う機会を増やすために、業務内容全体の再構築や業務の分業と協業を推進する。	外部アンケート等
		教員のアンケート結果からは、「担当業務内容を再構築し、分業や協業を行っている」の達成率は、7月が44%、1月が61%であった。また、「ワークライフバランスを図るために、各自ができる具体的方策を取っている(ICTの活用、定時退校の実践等)」の達成率は、7月が40%、1月が65%であった。7月に比べると1月は改善が見られるが、働き方改革の推進は、依然として道半ばであると言える。	

※1) 吉田高校グラデュエーション・ポリシー(吉高GP) …… 本校3年間を通して8つの力(自己肯定力・傾聴力・分析力・思考力・発信力・想像力・創造力・行動力)を身につけること。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校関係者評価	
実施日 (令和5年2月23日)	
評価	意見・要望等
4	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間の指導に関して、生徒が自身の興味・関心のあるものを探究すると、大きな成果を挙げることができる。今の若者は、健常者が障害者などのように関わるかについて考えるユニバーサル・マナーや、手話について高い興味・関心を示しているようである。また、メイクアップやファッション・コーディネートなどにも、若者は関心を持っているようである。今の若者のニーズを的確にとらえ、総合的な探究の時間のテーマ設定を行ってほしい。 地域との連携として、富士吉田商工会議所青年部と連携に関する協定を結び、様々な活動を展開していることは、活動の足掛かりとしては良いと思う。今後、織物業や観光業との連携も考えられるのではないかと。例えば、富士五湖観光連盟と連携を図り、さらに広域の団体との連携を模索することも一案である。 富士山学は、ただの調べ学習から一歩進んだように思う。単なる学習から主体的な発表活動へとつながっており、今後さらに深化してほしい。 地域との関わりや結びつきは、大切なテーマであると思う。コロナ禍で大変であると思うが、今後も富士山学やボランティア活動を通して、広い視野を培う機会を多く持ってほしい。 引き続き、生徒が地域社会を意識できる機会を多く作ってほしい。私たち地域事業者も、常に協力体制を整えておくので、気軽に相談してほしい。 校外活動として、地域社会に様々な人がいることを知ることも肝要である。例えば、インクルーシブ教育の推進として、支援学校や高齢者の介護施設の方々と交流することも考えられる。楽しい活動のみのらず、自身と向きあうきっかけ作りや、人としての優しさを知ることができる機会も必要であると思う。 自己肯定感を高めるためには、正しい評価と励ましが必要であると思う。生徒の努力や目標に向かって歩む姿を、周囲が認めてあげることが大切であると思う。そうすることで、より広い視野を持った生徒の育成を図ることができる。 自己肯定感を上げるためには、教員の声掛けや励ましが決定的に重要であると思う。生徒はいつも先生方に声をかけてほしいと思っている。先生方には、ぜひ生徒の良いところを見つけ褒めてほしい。そして、生徒に声をかけ続け頑張っている先生方を、古屋校長に褒めてもらいたい。吉田高校に、教員・生徒に幸せの輪が広まることを願っている。 学力の向上に合わせて、人間力の向上もとても大切であると感じる。地域社会と密接な関係を構築するにあたり、吉田高校の取り組みはとても良いと思う。SDGsに対する理解を進めると同時に、地域への思い入れや愛情も育ててほしい。 SDGsについて取り組んでいかないと、企業として成り立たない時代であるので、学生の時から意識させることはよいことであると思う。 今後も幅広く学ぶことができる指導計画を立案してほしい。
3	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の働き方改革を進めるためには、教職員が余裕を持てることが肝要である。私が勤務している会社では、以前は時間外勤務時間が非常に多かった。対策として、書類の削減に努め、オンラインの活用を図った。その結果、書類を以前に比べて、10分の1または20分の1程度に減らすことができた。学校でも、このような取り組みが有効ではないか。また、私の会社では、コストはかかるが各種のソフトを活用して、残業時間を半分以下にすることに成功している。働き方改革の改善策として、ソフトの活用が挙げられているので、ぜひソフトの利活用を推進してほしい。 7月は約4割、1月は約6割の達成率である。今後もさらに達成率が上がるように努めてほしい。 ワークライフバランスについては、コロナ禍での取り組みがヒントになった例もあると思う。今後も継続して、業務改善を進めてほしい。 働き方改革については、さらなる進展が必要であると思う。外部講師や外部コーチを積極的に受け入れて、教員の負担軽減を進めてほしい。また、そのことがきめ細かい生徒指導につながるような仕組みづくりを工夫してほしい。

魅力ある学校づくり加配に係る進捗状況報告書

学校名	山梨県立吉田高等学校
担当者名	野澤 俊英
連絡先電話番号	0555-22-2540
電子メールアドレス	noztoshi@kai.ed.jp

計画名	地域と学校の協働体制確立推進事業（計画） ～目指す姿：グローバルとローカルな視点をもって活躍できる生徒を育成する学校～
選択したテーマ	五 その他 学校の魅力づくりに資すること
1. 学校の状況【計画で記入した課題・問題はどうか変化したか】	<p>吉田高校が取り組むべき課題について</p> <p>1 トップレベルの学力を横断的に活用するために必要となる力の育成 →吉高GPの結果から、「トップレベルの学力を横断的に活用するために必要となる力の育成」について、着実に成果を挙げている。詳細は4. 確認された効果で詳述する。</p> <p>2 1を実現するために必要な、地域と学校をつなぐ協働体制の確立を推進 →本年度の計画通り、地域協働活動推進員設置委員会を実施し、「1を実現するために必要な、地域と学校をつなぐ協働体制の確立を推進」することができた。詳細は4. 確認された効果で詳述する。</p> <p>※目標（吉田高校グラデュエーションポリシー（吉高GP））：3年間をとおして自己肯定力、傾聴力、分析力、思考力、発信力、想像力、創造力、行動力の8つの力を身に付けることを目標として生徒を育成することを目指している。</p>
2. 具体的な取り組み内容	<p>【グローバルとローカルな視点をもって活躍できる生徒を育成する学校】関連</p> <p>（1）令和4年3月15日、本校は富士吉田商工会議所青年部と連携に関する協定を締結した。 協定に基づいて、2学年の総合的な探究の時間に、富士吉田商工会議所青年部の方に講師となっていたいただき、15講座の講演会を開催した。その後、生徒が講師と他の生徒の前でプレゼンテーションを行い、講師の方々から指導・助言をいただいた。（参考資料①②） 令和4年6月20日、本校は、富士吉田市と包括連携協定を締結した。地域と学校の協働体制確立に向けて、これまでもままして地元自治体の関係各部署からの協力が得られるようになり、総合的な探究の時間「富士山学」の運営に多大な貢献をいただいている。令和4年12月7日には、食文化の取り組みとして2学年の生徒が提案した地域独自の「御師料理」メニューが、富士吉田市内小中学校の給食メニューに採用されるなど、地域でも「富士山学」の活動が非常に注目されている。（参考資料③④⑤）</p> <p>（2） ①ユネスコスクールに加盟し、国際的な問題に学校全体として組織的に取り組むことによって、生徒に社会の一員としての自覚を持たせ、持続可能な社会形成に貢献できると考え、令和3年12月にユネスコスクール本部へExpression of Interestを提出した。令和5年1月末日までに、これまでの活動報告書を提出することになっている。（参考資料⑥） ②すべての教員が、SDGsの掲げる17の目標を組み入れた授業を実施し、授業のレポートを提出した。（参考資料⑦） ③英語に関する取組として、令和4年度に本校のホームページに英語版ページを加えた。また、昼休み英会話を実施した。 （3）北極圏カナダナブト準州関係者と連携した探究活動とプレゼンテーションを実施した。（参考資料⑧） （4）英国オックスフォードブルックス大学と連携した探究活動を実施が1月～2月の予定となったため、代わりにKizuna Across Cultures (KAC) の運営する Global Classmates (グローバル・クラスメート) に取り組んだ。（参考資料⑨） （5）文部科学省・教科調査官である加藤智先生から資料をいただき、本計画の取り組み内容に関する3観点評価の開発を行った。加藤先生から教員向け評価講習会の資料を受領し、加藤先生から講義を受けた。令和4年12月8日に、全職員を対象に評価講習会の伝達講習を行った。</p> <p>【地域と学校の協働体制確立推進】関連</p> <p>○ 吉田高校地域コーディネーター（学校協働活動推進員）の配置を目指して、以下の活動に取り組んだ。 （6）令和4年12月10日に、地域協働活動推進員設置委員会を発足させた。本校が地域の防災避難場所に指定されていることから、台風・大雨、地震、富士山噴火等の自然災害の発生に備えて、学校と地域が一体となって地域防災に取り組むための契機とすると同時に、地域コーディネーター配置に向けての足掛かりとした。（参考資料⑩）</p> <p>（7）先進校視察 以下の2校は、熊本県の地方の高校で防災を中心にコミュニティ・スクールとして力を入れており、防災や地域連携についての知見を得るためオンラインで視察をさせていただいた。 ①熊本県立小国高等学校（令和4年12月1日）（参考資料⑪） ②熊本県立南稜高等学校（令和4年12月22日）（参考資料⑫⑬）</p>
※計画書の内容を補足する資料	<p>参考資料① 富士吉田商工会議所青年部講演、生徒プレゼン資料 参考資料② 富士吉田商工会議所青年部講演、新聞記事（山梨日日新聞、令和4年6月25日） 参考資料③ 富士吉田市と吉田高等学校の包括連携に関する協定書 参考資料④ 富士吉田市と吉田高等学校の包括連携に関する協定書、新聞記事（山梨日日新聞、令和4年7月1日） 参考資料⑤ 富士山学で考案の「御師料理」が小中学校給食メニューに採用、新聞記事（山梨日日新聞、令和4年12月13日） 参考資料⑥ ユネスコスクール加盟申請に向けた諸活動資料 参考資料⑦ SDGs教員一人一実践レポート資料 参考資料⑧ カナダナブト準州探究活動内容資料 参考資料⑨ Global Classmates 活動内容資料 参考資料⑩ 地域協働活動推進員設置委員会資料 参考資料⑪ 熊本県立小国高校オンライン学校視察資料 参考資料⑫ 熊本県立南稜高校オンライン学校視察資料（1） 参考資料⑬ 熊本県立南稜高校オンライン学校視察資料（2）</p>

<p>3. 加配前に期待した効果</p> <p>【グローバルとグローバルな視点をもって活躍できる生徒を育成する学校】関連</p> <p>(1) 富士吉田商工会議所青年部と連携を結び、総合的な探究の時間の講師として講演を実施してもらうことで、グローバルな視点を生かして活躍できる生徒を育成することが期待できる。</p> <p>(2) ユネスコスクールに加盟を目指し、国際的な問題に学校全体として組織的に取り組むことによって、生徒に社会の一員としての自覚を持たせ、持続可能な社会形成に貢献できることが期待できる。また、教員がSDG s の掲げる17の目標を組み入れた授業を実施し、授業のレポートを提出することで、教員もSDG s の掲げる理念を理解し、世界が直面する諸問題を解決する能力を養うことが期待できる。</p> <p>(3) 北極圏カナダナブト準州関係者と連携した探究活動とプレゼンテーションを実施することで、生徒が国際感覚を磨き、世界共通語である英語の重要性を改めて認識することが期待できる。</p> <p>(4) 生徒が「Global Classmates (グローバル・クラスメート)」に取り組むことで、グローバルな視野をいっそう広げることができ、多くの生徒が英語学習の意義を深く理解できることが期待できる。</p> <p>(5) 本計画の取り組み内容に関する3観点評価の開発することで、学習指導要領の観点別評価に即して本事業を評価することが期待できる。また、教員向けの評価講習会を実施することで、全教員が共通理解をもって本事業の意義を認識することができることも期待できる。</p> <p>【地域と学校の協働体制確立推進】関連</p> <p>(6) 地域協働活動推進員設置委員会を発足することで、学校と地域が一体となって地域防災に取り組むこと、また、地域コーディネーター配置に向けての足掛かりとすることが期待できる。</p> <p>(7) 熊本県立小国高等学校、熊本県立南陵高等学校をオンライン訪問することで、両校から、防災教育、防災についての地域連携について、有益な情報を得ることが期待できる。</p> <p>(8) 上記の(1)から(7)の活動を通して、吉高GPの8つの力、自己肯定力、傾聴力、分析力、思考力、発信力、想像力、創造力、行動力のいずれも向上することが期待できる。</p>
<p>4. 確認された効果</p> <p>【グローバルとグローバルな視点をもって活躍できる生徒を育成する学校】関連</p> <p>(1) 富士吉田商工会議所青年部の講演会、生徒のプレゼンテーション後のアンケート結果によると、講座の内容に「大変満足している」、「満足している」生徒の割合が81.8%であった。また、講座が「大変わかりやすかった」、「わかりやすかった」と回答した生徒の割合は、82.6%であった。自由記述でも、地域社会や自分の将来の進路選択のために大変役に立ったという声が多く寄せられた。講演会とプレゼンテーションを通して、グローバルな視点を生かして活躍できる生徒を育成することができたと考えられる。(参考資料⑭)</p> <p>(2) ユネスコスクールの申請に際して、これまで地域や国内の諸問題に対して数々のアプローチしてきた生徒の、一層広い視点での問題解決への参画が可能になった。また、国際的な問題に学校全体として組織的に取り組むことによって、生徒に社会の一員としての自覚を持たせ、持続可能な社会形成に貢献することができた。さらに、すべての教員が、SDG s の掲げる17の目標を組み入れた授業を実施し、授業のレポートを提出したことで、SDG s に対する理解を深めることができただけでなく、教員・生徒とも持続可能な開発目標への意識が高まった。教員アンケートの結果、「レポートを提出したことでSDG s についての学びが深まった」と回答した教員が80.0%であった。(参考資料⑮)</p> <p>(3) 北極圏カナダナブト準州関係者と連携した探究活動とプレゼンテーションを実施したことで、グローバルな視点が身につく、実践的な英語力の向上を図ることができ、国際社会で活躍できる資質と能力を育成することもできた。実施後のアンケートで、「グローバルな問題を、世界共通語である英語で理解し議論することを通して、英語学習に意義を感じた」と回答した生徒の割合は、95.8%であった。(参考資料⑯)</p> <p>(4) 「Global Classmates (グローバル・クラスメート)」の取り組みをとおして、国際感覚を磨くことができただけでなく、英語コミュニケーション能力を向上させることができた。また、グローバルな舞台で活躍できる能力や態度を育成することもできた。実施後のアンケートで、「世界共通語である英語での交流を通して、英語学習に意義を感じた」生徒の割合が87.5%であった。(参考資料⑰)</p> <p>(5) 本計画の取り組み内容に関する3観点評価の開発することができ、文部科学省の加藤調査官による教員向け評価講習会を実施することで、学習指導要領の観点別評価に即して本事業を評価することができた。また、教員向けの評価講習会を実施することで、全教員が共通理解をもって本事業の意義を認識することができ、本事業を同じ基準で評価・改善することができた。(参考資料⑱)</p> <p>【地域と学校の協働体制確立推進】関連</p> <p>(6) 地域協働活動推進員設置委員会を発足させたことで、学校と地域が一体となって地域防災に取り組むことができたと同時に、地域と学校との連携という意味でも大きな意義があった。さらに、地域コーディネーター配置に向けての足掛かりとすることもできた。実施後のアンケートで、「今回の委員会は、自然災害の発生に備えて、学校と地域が一体となって地域防災に取り組むための契機となるために開催したが、目的を達成することはできたと思うか」という問いに対して、「そう思う」、「概ねそう思う」と回答した割合は100%であった。また、今回の委員会の開催は、後日山梨日日新聞でも大きく掲載され、学校関係者や地元の方々に情報提供を図ることができた。(参考資料⑲⑳)</p> <p>(7) 熊本県で防災を中心にコミュニティ・スクールとして力を入れている熊本県立小国高等学校、熊本県立南陵高等学校をオンライン訪問した。両校から、防災教育、防災についての地域連携についての貴重な示唆や意見をいただき、来年度以降の本校の取組に向けて、大変参考になった。(参考資料㉑㉒)</p> <p>(8) 1年生では、吉高GPの8つの力のすべてにおいてポイントが向上した。特に、自己肯定力(0.23ポイントアップ)、傾聴力(0.17ポイントアップ)、行動力(0.16ポイントアップ)の上昇は著しい。2年生でも、吉高GPの8つの力のすべてにおいてポイントが向上した。特に、自己肯定力(0.26ポイントアップ)、思考力(0.19ポイントアップ)、傾聴力(0.18ポイントアップ)は顕著に上昇した。(参考資料㉓㉔)</p>
<p>※確認された効果を補足する資料</p> <p>参考資料⑭ 富士吉田商工会議所青年部との連携活動アンケート結果</p> <p>参考資料⑮ 教員SDG s 一人一実践アンケート結果</p> <p>参考資料⑯ カナダナブト準州活動内容アンケート結果</p> <p>参考資料⑰ Global Classmates 活動内容アンケート結果</p> <p>参考資料⑱ 文科省による3観点評価、評価講習会資料</p> <p>参考資料⑲ 地域協働活動推進員設置委員会アンケート結果</p> <p>参考資料⑳ 地域協働活動推進員設置委員会、新聞記事(山梨日日新聞、令和4年12月11日)</p> <p>参考資料㉑ 熊本県立小国高校オンライン学校訪問記録</p> <p>参考資料㉒ 熊本県立南陵高校オンライン学校訪問記録</p> <p>参考資料㉓ 吉高GP評価分析資料(1学年)</p> <p>参考資料㉔ 吉高GP評価分析資料(2学年)</p>

5 今後の取り組み内容・スケジュール

【グローバルとグローバルな視点をもって活躍できる生徒を育成する学校】関連

(1) 富士吉田商工会議所青年部とのいっそうの連携を図り、令和5年度は社会人講師20名からの指導助言および質疑応答を行い、グローバルな視点をもって活躍できる生徒のいっそうの育成を図る。

講師の役割：①総合的な探究の時間のアドバイザー②総合的な探究の時間の講師

(2) 日本ユネスコ国内委員会へ活動報告書を提出し、ユネスコ本部へ加盟申請を行い、認定されることを目指す。また、すべての教員によるSDGsを組み入れた授業の実施をいっそう推進し、成果を冊子としてまとめる。さらに、ホームページの英語版のいっそうの拡充や昼休み英会話等の英語力向上の取り組みをさらに推進する。

(3) 北極圏カナダナプト準州関係者と連携した探究活動とプレゼンテーションを年2回実施（オンライン）する。

(4) 英国オックスフォードブルックス大学と連携した探究活動を年2回実施（オンライン）する。

(5) 本計画の取り組みの内容に関する3観点評価の開発をさらに進め、文部科学省有識者による教員向け評価研修会を実施する。

○令和5年度（2年目）は、上記の（1）～（5）の諸活動について、他校へ普及活動を行う。

【地域と学校の協働体制確立推進】関連

(6) 地域協働活動推進員設置委員会の取組をさらに進め、関係団体等説明会を年複数回開催する。学校と地域が一体となって地域防災に取り組む仕組み作りを推進すると同時に、吉田高校地域コーディネーターの配置を実現する。なお、この事業については、生涯学習課・青少年教育担当が令和5年度の予算化に向けて検討を進めてきている。

(7) 地域学校協働本部の整備に向けた検討を推進する。

○令和5年度（2年目）は、上記の（6）、（7）の活動について、校長連絡会議、教頭連絡会議、教務主任連絡会議等で発表を行い、山梨県下各高等学校へ情報提供を行う。

令和4年度 第3回吉田高等学校学校運営協議会 議事録

- 1 日 時 令和5年2月23日(木)
- 2 場 所 吉田高等学校朝日子ホール
- 3 時 間 午前9時30分より午前11時15分
- 4 参加委員 10名(敬称略)
鶴田 清司(会長) 梶原 正彦(副会長) 井出 智子
中村 義仁 中野 健一 高保 裕樹 栗井 晶子 岩下 平輔 渡邊 正人
古屋 勇人(校長)

- 5 次 第 司会 小佐野 拓
 - ① 開会の言葉(司会)
 - ② 学校長あいさつ
 - ③ 学校運営協議会会長あいさつ
 - ④ 教育活動報告(生徒会主任 萱沼、教頭 野澤より)
・部活動報告(関東大会、全国大会、総合的な探究の授業)
(放送部 第69回NHK杯全国高校放送コンテストテレビドキュメント部門全国
入選作品視聴)
 - ⑤ 議事(議長 鶴田清司会長)
 - (1) 第2回学校評価アンケート集計結果報告と
令和4年度学校評価報告書の評価について (教頭 野澤より)
 - (2) 「地域と学校の協働体制確立推進事業」について(教頭 野澤より)
 - (3) 令和5年度学校運営基本方針の骨格について (校長 古屋より)
 - (4) その他
 - ⑥ 連絡事項
 - (1) 令和5年度学校運営協議会委員について
 - (2) 令和5年度第1回学校運営協議会開催日について
4月9(日)、15(土)、16日(日)のいずれかを予定
 - (3) その他
 - ⑦ 閉会の言葉(司会)

- 6 議事録
 - (1) 校長挨拶
 - ・ウエイトリフティング部、弓道部、ボート部、放送部、音楽部、スケート部、自転車競技等の活躍について紹介した。
 - ・3年生の進路状況については、指定校推薦で19名が大学に合格。国公立大学の学校推薦型選抜、総合型選抜で20名が合格。防衛大学にも2次合格者を出している。大学入学共通テストの出願率は過去最高の99.6%である。

- ・高校入試の前期入試では、理数科の志願倍率が 3.75 倍で県下最高の倍率、後期入試でも理数科の志願倍率は 1.38 倍で、専門教育学科の中では最高の倍率である。後期入試で、普通科、理数科をあわせた志願者は 209 名で、普通科、理数科をあわせた定員を 15 人上回っている。なお、普通科は特別措置の生徒を 1 名含んでいる。
- ・第 2 回学校運営協議会でご承認をいただいた、女子生徒のスラックス導入については制度をスタートさせている。早速、スラックスの購入者があった。来年度の新入生にも、スラックス購入の資料を配布する。
- ・3 月 1 日実施の、第 73 回卒業証書授与式では、3 年生 235 名が卒業生となる見込みである。来賓については、PTA 会長、同窓会長にとどめる予定である。
- ・第 2 回の学校運営協議会の際にいただいた令和 5 年度教職員の任用についての意見のいくつかを、県教育委員会が聞き入れてくれる見込みである。学校運営協議会の委員の皆さん方に、大変感謝している。

(2) 学校運営協議会会長あいさつ

- ・吉田高校の生徒・教職員が、非常に努力を重ねており、大変嬉しく思っている。
- ・第 2 回の学校運営協議会の際に出した令和 5 年度教職員の任用についての意見が人事に反映されており、この会の存在意義を感じている。
- ・本日の会議で活発な議論がなされ、吉田高校の発展に寄与することを期待したい。

(3) 教育活動報告

資料に基づき、部活動の報告を行った。また、総合的な探究の時間の成果発表会について、報告を行った。その後、放送部の第 69 回 NHK 杯全国高校放送コンテストテレビドキュメント部門全国入選作品を視聴した。

(4) 議事

①第 2 回学校評価アンケート集計結果報告と令和 4 年度学校評価報告書の評価について

教頭が、1 月に実施した学校評価アンケート（生徒・教職員・保護者）の概況と課題解決について説明した。また、令和 4 年度学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）の成果と課題、改善策について、説明を行った。

（説明後）

委員

吉高 GP に対する意識が、生徒・教職員・保護者とも非常に高く、素晴らしい。自己肯定感の向上は難しいが、「一つでも多くのことを知っていること、一つでも多くのことをやったこと」が自己肯定感に直結すると思う。自己肯定感の基礎を支える部分の指導を、大切にしてほしい。働き方改革については、7 月の達成率約 4 割に比べ、1 月の達成率は約 6 割に上昇しており、心強く感じている。今後、さらに働き方改革が進むことを期待したい。

委員

自己肯定感を高めるためには、正しい評価と励ましが必要であると思う。生徒の努力や目

標に向かって歩む姿を、周囲が認めてあげることが大切であると思う。

委員

教職員の働き方改革を進めるためには、教職員が余裕を持てることが肝要である。私が勤務している会社では、以前は時間外勤務時間が非常に多かった。対策として、書類の削減に努め、オンラインの活用を図った。その結果、書類を以前に比べて、10分の1または20分の1程度に減らすことができた。学校でも、このような取り組みが有効ではないか。また、私の会社では、コストはかかるが各種のソフトを活用して、残業時間を半分以下にすることに成功している。働き方改革の改善策として、ソフトの活用が挙げられているので、ぜひソフトの利活用を推進してほしい。

委員

総合的な探究の時間の指導に関して、生徒が自身の興味・関心のあるものを探究すると、非常に成果を挙げることができる。今の若者は、健常者が障害者とどのように関わるかについて考えるユニバーサル・マナーや、手話について高い興味・関心を示しているようである。また、メイクアップやファッション・コーディネートなどにも、若者は関心を持っているようである。今の若者のニーズを的確にとらえ、総合的な探究の時間のテーマ設定を行ってほしい。

校長

生徒の自己肯定感の向上のために、様々な成功体験を提供できるようにしていきたい。生徒に叱咤激励を与える際にも、「叱る」と「励ます」ことのバランスを、十分考慮していきたい。総合的な探究の時間のテーマ設定に際して、ユニバーサル・マナーや、手話についても、テーマとして検討に加えていきたい。来年度からは、総合的な探究の時間のテーマとして、ふるさと納税の在り方についてもテーマとすることを考えており、地域の活性化に向けて今後さらにどのようなことができるかを、生徒に考えさせていきたい。また、地域の活性化策として、織物産業の今後についても探究させたい。働き方改革については、本日委員からいただいた意見も参考として、力強く推進させていきたいと考えている。

②「地域と学校の協働体制確立推進事業」について

教頭が、「地域と学校の協働体制確立推進事業」の具体的な取り組み内容、確認された効果、来年度の取り組み内容・スケジュールについて、説明を行った。

(説明後)

委員

具体的な取り組み内容の、北極圏カナダヌナブト準州関係者と連携した探究活動、グローバル・クラスメートとは、具体的にどのような内容だったのか。

教頭

北極圏カナダヌナブト準州関係者と連携した探究活動では、本校2学年理数科の生徒20名、北杜高校の生徒約20名がオンラインで参加し、北極圏に位置するヌナブト準州で起きている気候変動、大気汚染などの課題から1つ研究テーマを選び、課題解決の案を作成し、英語で発表した。発表内容としては、ヌナブトもしくは自分の身の回りの該当課題の現状と、それに対してどんな解決策がなされているか、自分たちにはどんなことができる

かを述べた。その後、講師である Jeremy 先生が生徒に助言をした。グローバル・クラスメートでは、1 学年理数科の生徒 40 名が参加し、日本にいながらアメリカにいる同世代の生徒たちとクラスメートになり、幅広いトピックについて、写真や動画なども交えながらコメントを交換し合う活動に取り組んだ。このことを通じて、アメリカの生徒と友情を育み、相手と自国の文化への理解を深めると同時に、英語力の向上も図ることができた。

委員

この事業のために、今年度加配を受けているが、加配に見合うだけの素晴らしい活動が展開されている。来年度、さらに活動が充実したものになることを期待したい。

③令和 5 年度学校運営基本方針の骨格について

校長から、令和 5 年度の学校運営の基本方針について、以下の説明があった。

- ・来年度以降も、文武両道を実践し、地域のトップ校として、教育活動をさらに進化・発展させていきたい。
- ・吉高 GP については、来年度就任する新校長にも引き継いでもらいたい。
- ・来年度の 1 年生から、普通科に高習熟クラスを導入し、よりきめ細かい指導を実現すると同時に、進路指導の充実を図っていく。国公立大学や私立の難関大学に合格者を輩出し、保護者・地域の期待に応えていきたい。
- ・部活動や学校行事等、生徒が楽しさを味わえる活動もいっそう充実させ、生徒の学校生活満足度を向上させていきたい。また、プレスリリースを積極的に活用し、本校の魅力や利点を、メディアを通して発信していきたい。
- ・令和 5 年度山梨県学校教育指導重点と今年度の学校評価の結果を踏まえ、来年度の第 1 回学校運営協議会で学校運営方針を示す。委員の方々に検討をお願いし、承認をいただきたい。

(説明後)

委員

本校が地域のリーダー校であることを、よく承知している。進学校でありながら、部活動でも大きな実績を挙げており、素晴らしい。本校は、非常にバランスの取れた高校である。引き続き、文武両道を実践し、その良さや魅力を学校外に積極的にアピールしてほしい。また、吉高 GP は具体的な目標の指標になっており、大変魅力的である。吉高 GP に対する生徒の意識も、年々高まっていると感じている。吉高 GP を今後も大切にしてほしい。

委員

地域との連携として、富士吉田商工会議所青年部と連携に関する協定を結び、様々な活動を展開していることは、活動の足掛かりとしては良いと思う。今後、織物業や観光業との連携も考えられるのではないかと。例えば、富士五湖観光連盟と連携を図り、さらに広域の団体との連携を模索することで、より広い視野を持った生徒の育成を図ることができると考える。

委員

富士吉田商工会議所青年部との連携は、良い取り組みである。自営業を営んでいる私の息子は、山梨県中小企業家同友会富士山支部（*正式名称については、井出さんに確認中）

に所属しており、富士河口湖高校からの依頼で、将来会社を起業することについて、生徒に指導を行っている。本校は大学に進学をする生徒が大部分であるが、将来会社を起業するための準備や心構えを学ぶことも、有益であると思う。

委員

来年度から導入される普通科の高習熟クラスについて、基本的には賛成であるが、懸念もある。習熟度別クラスが導入されていた高校に私が勤務していた時、高習熟クラス以外の生徒たちが、廊下を歩いているとき、自分のクラスの名札を外していたことがあった。生徒に理由を聞くと、「私たちは成績が悪いクラスにいるから、恥ずかしい」と言っていた。これは一昔前のことであるが、来年度以降に、同じことが起こる懸念もある。吉高 GP を効果的に運用して人間教育を充実させると同時に、生徒の自己肯定感を高め、人間性と学力が等しいという誤った認識を生徒が持たないように、十分注意と配慮をしてほしい。同時に、高習熟クラス以外の生徒と教員が、自分たちは頑張らなくてよいと思わないように、生徒と教員を正しい方向に導き、新しい時代に合った高習熟クラスを作ってほしい。

委員

高習熟クラスについては、専門家の間でも、賛否が分かれている。大切なことは、高習熟クラスに所属して、「実力を高め、弱点を克服できた」と生徒に効果を実感させられるように、指導することであると思う。

委員

中学校には、学力的に高い生徒がいる一方で、低学力の生徒もおり、同一步調で指導をすることが難しいという面がある。「授業が理解できるから、楽しい」という習熟度別クラスの本来の利点が十分に発揮されると同時に、そのことが生徒の自己肯定感や満足感につながるように指導してほしい。また、コロナ禍の3年間で、不登校の生徒が増加した。今年度、学校行事を行ったところ、生徒・教員が皆笑顔になった。今後、学校行事を着実にやり、原点にかえった教育活動を進めていきたい。本校の先生方にも、中学校現場の現状と課題を十分に理解していただいた上で、中高の連携を推進していきたい。

校長

今年度末で、校長を退任する。委員の皆さんには、大変お世話になり、非常に感謝している。令和5年度の学校運営基本方針についても、委員の皆さんから、貴重な意見と示唆をいただき、重ねてお礼を申し上げたい。来年度導入される1学年普通科の高習熟クラスについては、「高習熟」という名称は用いず、1年5組という呼称を使うことが校内で確認されている。また、パートに分けた指導を行う際にも、Aパート、Bパートなど、成績順を連想させるような呼称は用いない予定である。

④その他

なし

(5) 連絡事項

①令和5年度学校運営協議会委員について

原則として、来年度も引き続き委員をお願いしたい。

②令和5年度第1回学校運営協議会開催日について

4月9（日）、15（土）、16日（日）のいずれかを予定している。3月に各委員の都合を伺う予定である。

③その他

なし

以上